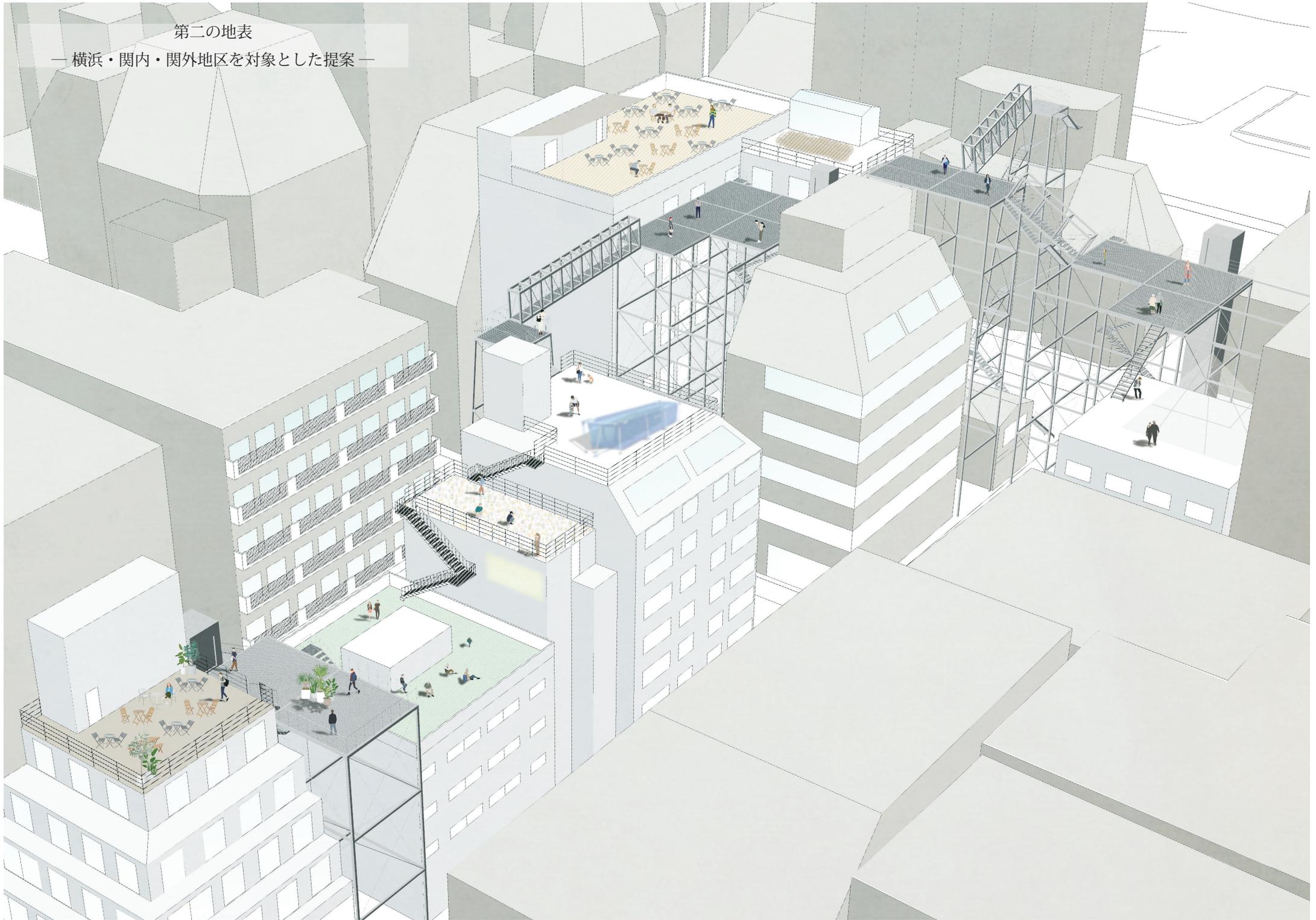


第二の地表

— 横浜・関内・関外地区を対象とした提案 —



1. 対象敷地



2. 設計背景

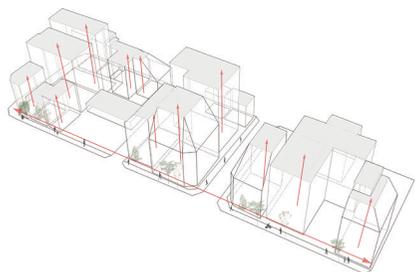
屋上利用の未活用

1960 ~ 1970 年代に普及が始まった陸屋根が多く現れたが、都市部のビルの屋上は設備機器が置かれたり、利用していない屋上が多くあり、上空から見ると殺風景な風景になっている。



屋上は行き止まり

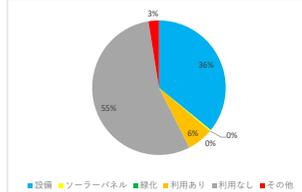
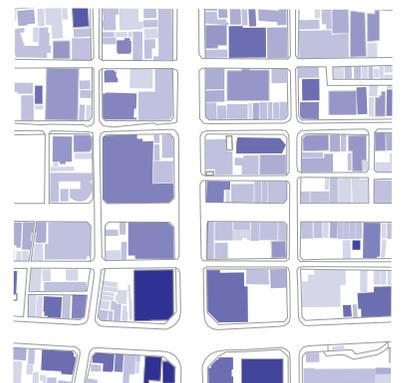
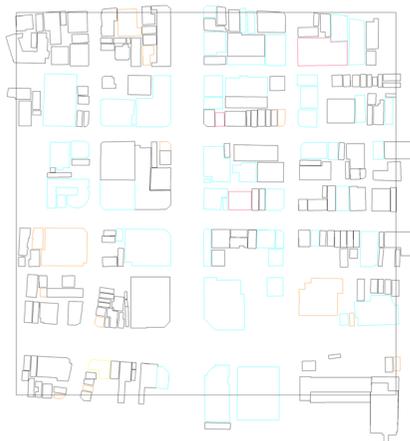
都市におけるビルは言うてみれば、地上階から上階に至る行き止まりの道、つまり、袋小路だということである。いかに高層化し、エレベーターが高速になろうとも、また、上階に快適なラウンジを作っても、その原則（ビルは行き止まりの袋小路）には変わらない。



3. 調査・分析

人々が暮らしていく中で、地上だけではなく上空にも生活の場を広げることで、密を避け新たな空間が生まれるのではないかと思います。日本でもまだ利用が進んでいない屋上空間を、屋上空間として利用することの可能性を探り、設計案として示す。

関内・関外地区の屋上利用を Google Earth の航空写真を独自に分析し、その利用状況に応じて写真をトレースし面積を測定することで、分類、データ化する。



関内・関外地区周辺		
利用項目	面積 (m ²)	利用率 (%)
設備	16231.1	36%
ソーラーパネル	180.3	0%
緑化	0	0%
利用あり	2826.1	6%
利用なし	24905	55%
その他	1139.5	3%

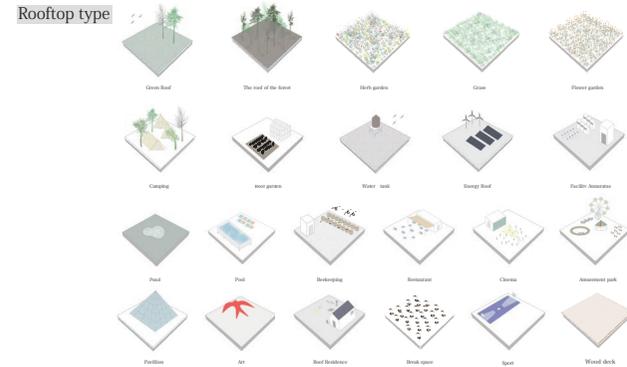
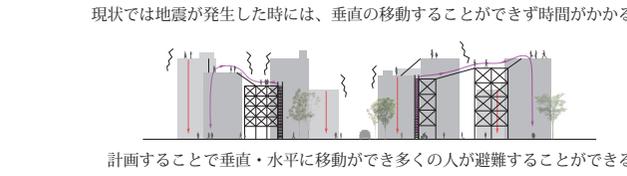
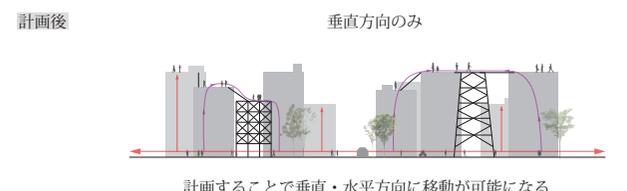
		横浜	
夏の平均気温		25°C	
冬の平均気温		9°C	
平均高さ		28m	
平均用途		商業	
利用率	設備	45%	36%
	ソーラーパネル		0%
	緑化		0%
	利用あり		6%
	その他		3%
未使用率		55%	

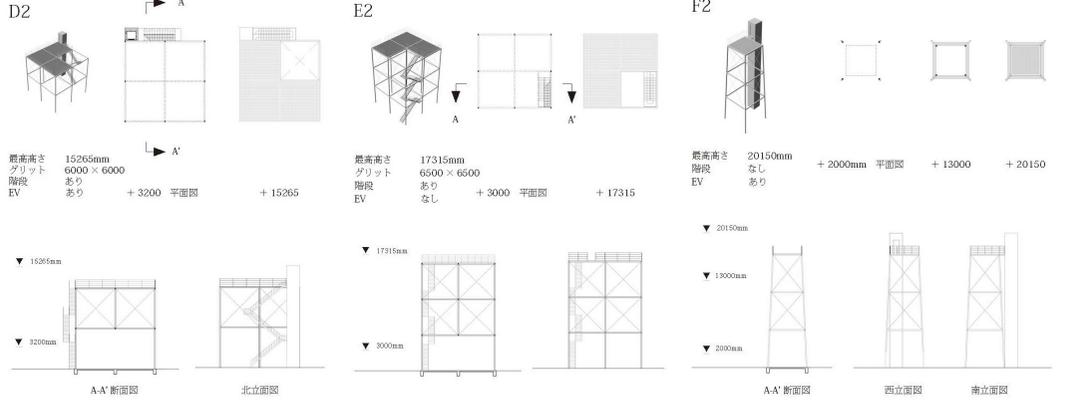
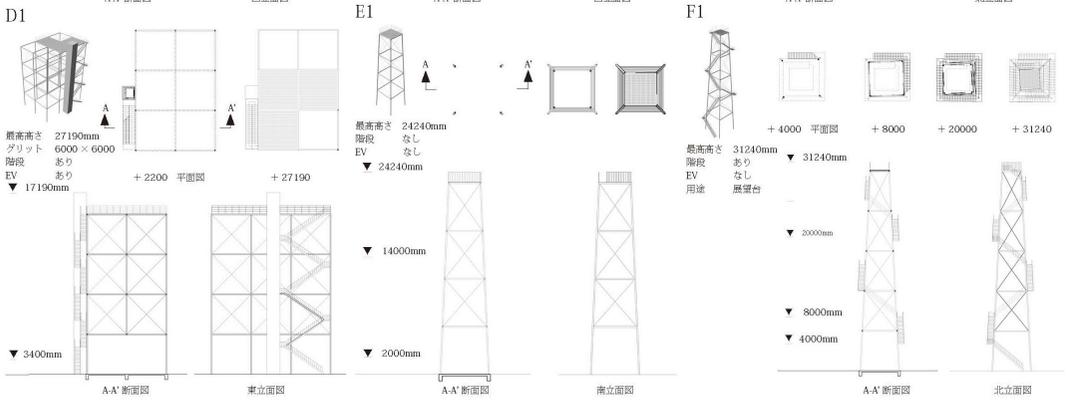
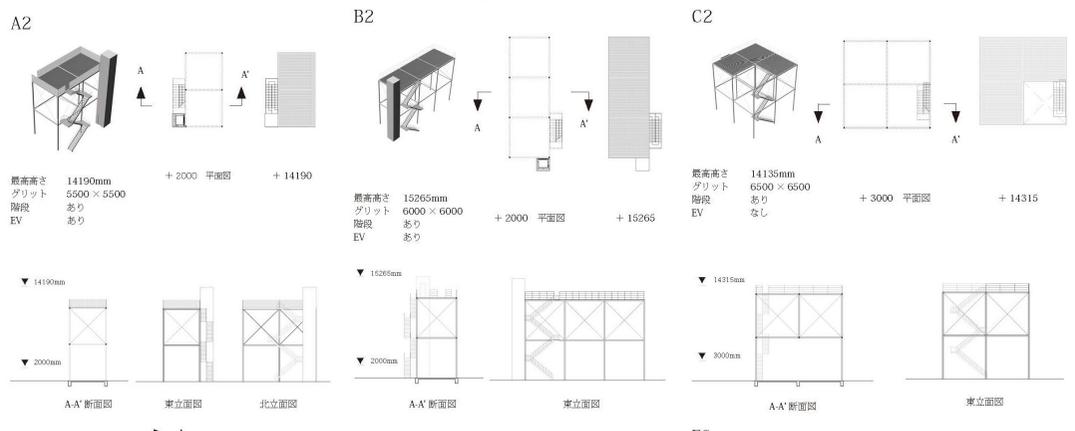
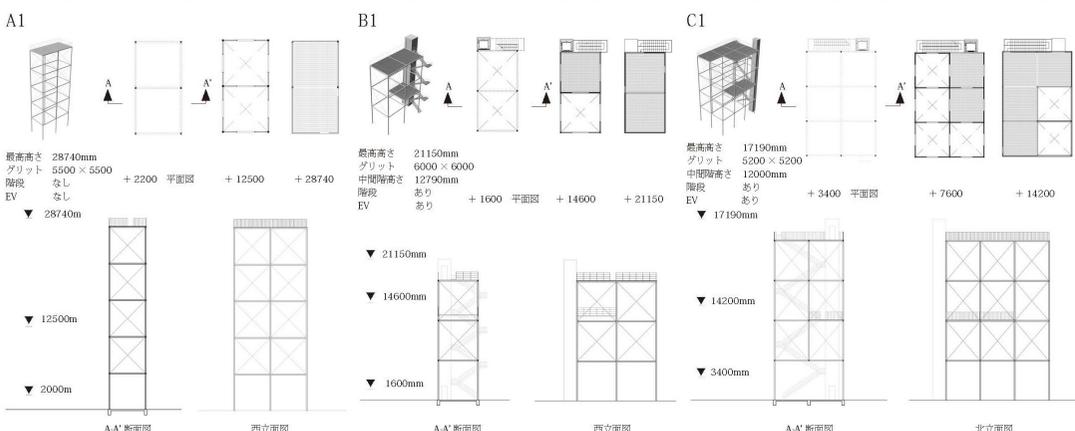
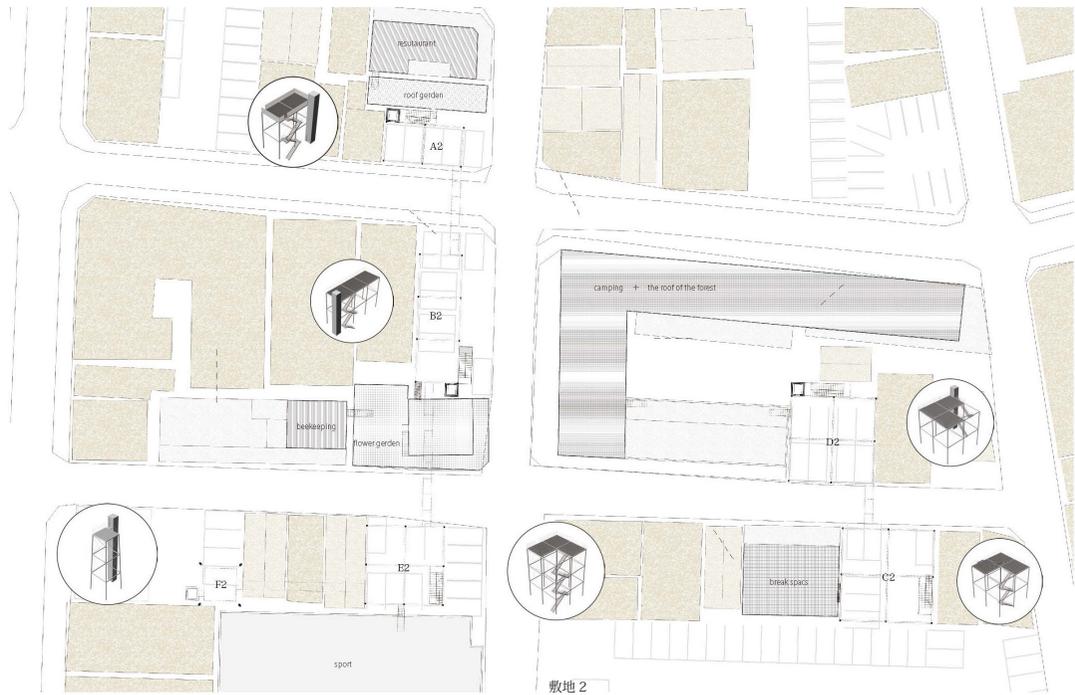
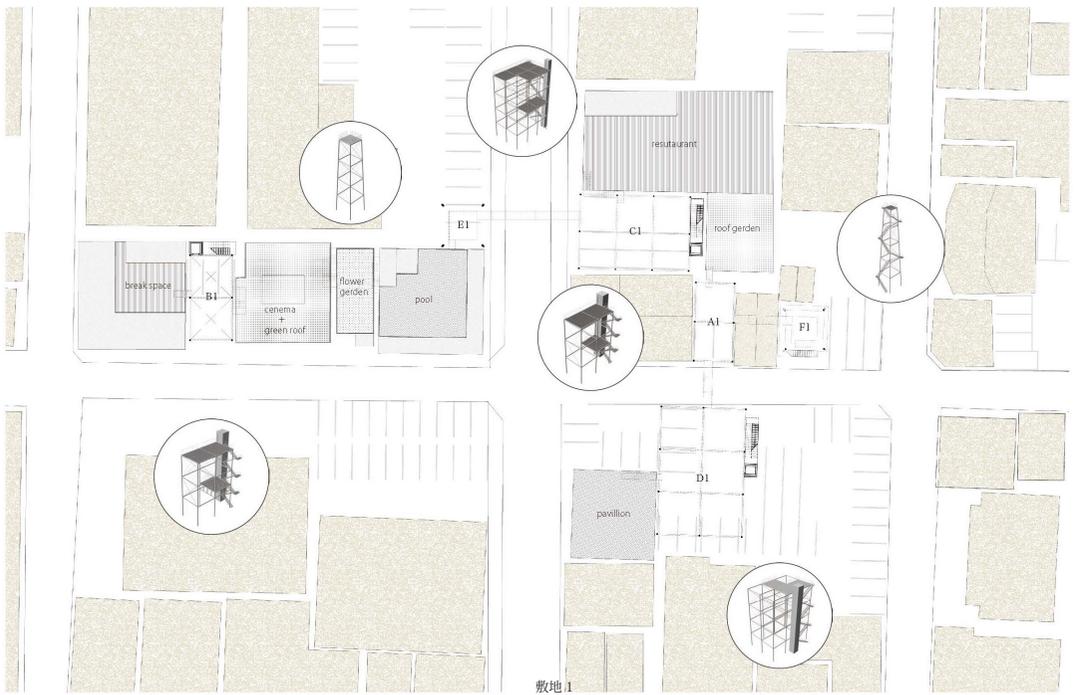
商業用のだが、設備機器置き場として利用している割合は低い。また、関内にも多くの未使用の屋上があると、言うことから、計画で新しい屋上空間の使い方を提案する。

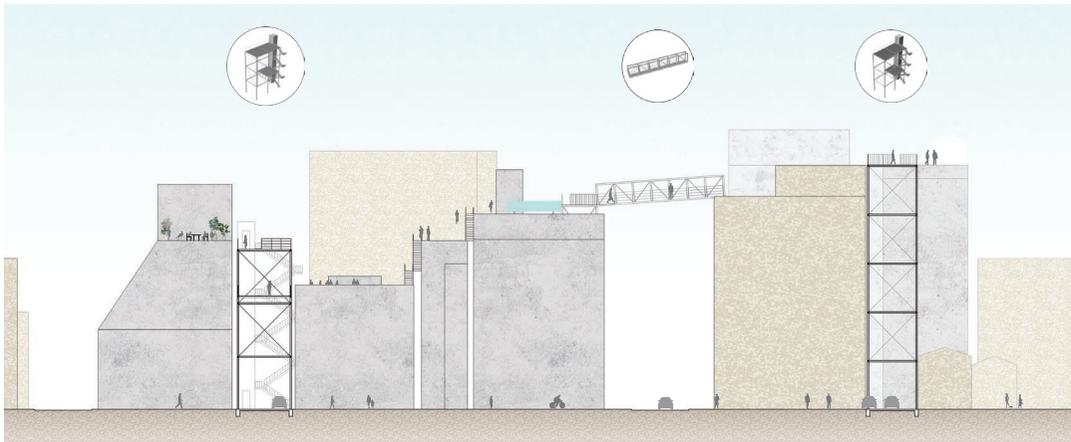
都市の性格を決定付ける要素は、建築物は数十年単位で変化してくるが、オープンスペースはもっと長いスパンで残る。オープンスペースこそが、その都市の性格を決定付けているのではないかと。例えば、関内・関外地区には多くのコインパーキングが存在する。コインパーキングは全く利用していないとは言えないが、建物として利用されていない。コインパーキングは一種のオープンスペースと捉えることが可能。一種のオープンスペースであるコインパーキングを、オープンスペースの用途を残しつつ建築化して使う。

4. 計画

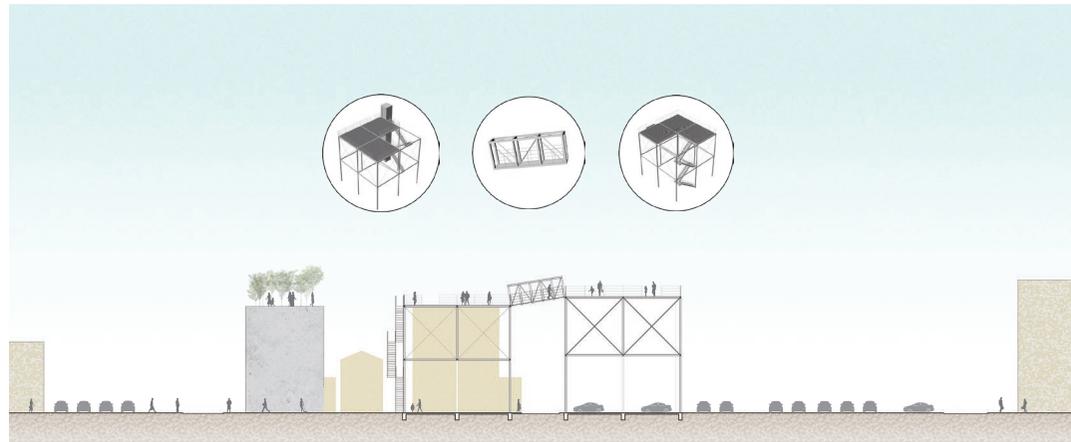
既存の屋上と一種のオープンスペースのコインパーキングを利用し計画を行う。







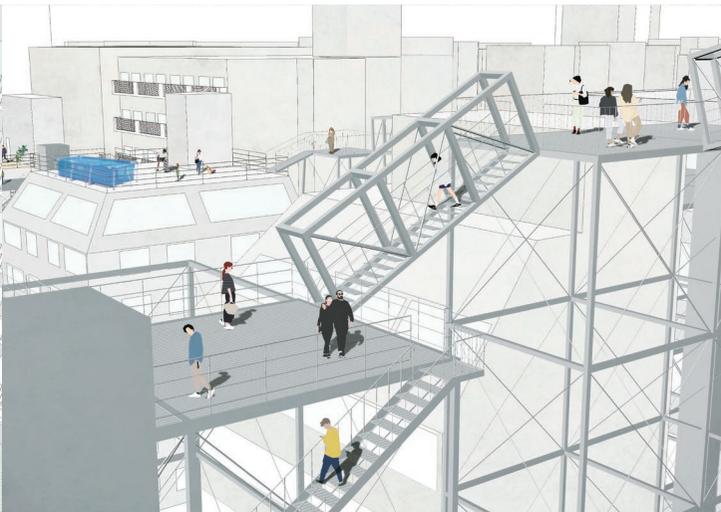
敷地 1 断面図



敷地 2 断面図



上空から休憩場と広場を見る



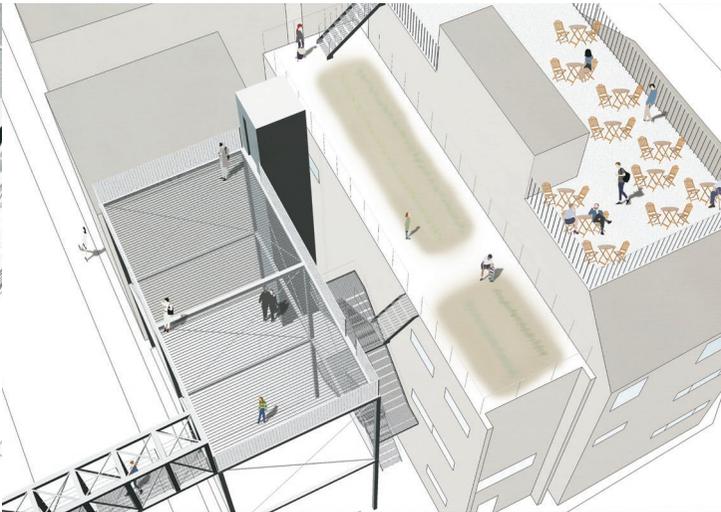
A1 と D1 を繋ぐ橋



上空から休憩場とキャンプ場を見る



E2 の周辺を上空から見下ろす



B2 とレストランを見る



F2 と E2 を繋ぐ橋